

# 答 申 書

小牧市特別職報酬等審議会

平成 24 年 3 月 28 日

小牧市長 山下 史守朗 様

小牧市特別職報酬等審議会  
会 長 稲 垣 猛

小牧市議会議員の報酬の額並びに市長及び副市長の給料の額  
について（答申）

平成 24 年 2 月 27 日付け 23 小人第 1259 号で当審議会に対し、小牧市  
議会議員の報酬の額並びに市長及び副市長の給料の額について意見を求め  
られた。

当審議会は、平成 24 年 2 月 27 日及び平成 24 年 3 月 22 日の 2 回に  
わたり慎重に審議した結果、下記のとおりとすることが適当であるとの結  
論を得たので、この旨答申する。

## 記

### 1 報酬及び給料月額

市議会議員の報酬の額並びに市長及び副市長の給料の額は、いずれも  
現行の額とする。

### 2 事 由

わが国の経済情勢は、世界的な金融危機を発端とした国内景気の悪化  
から持ち直す間もなく、東日本大震災の影響もあり、依然として厳しい  
状況が続いているところである。本市においては、これまで近隣他市に  
比べ、また全国的にも健全と認められる財政運営を図ってきたが、近年  
の決算では歳入における市民税が前年比マイナスという状況が続き、さ  
らに、今後の人口の大幅な増加も見込めない状況にある。こうした面か  
ら、現在健全である小牧の財政状況も、長期的には予断を許さない状況  
となっている。

このような状況を念頭におき、県内各市の人口、財政状況、報酬額及  
び職員の給与の状況等を比較検討するとともに、直近に特別職の報酬等

の額が改定された平成12年度以降の年収の推移や社会経済情勢等を考慮しながら、諮問事項について慎重に審議した。

審議の中で、小牧市においては財政力の健全性が県内有数の状況で維持され、かつ、堅実な市政運営がされていること、特別職については広範多岐に及ぶ政策決定・意志決定が求められ、それぞれの市政運営に対する職責は非常に重いということ、また、地域主権改革を進めるための創造力・改革力がより一層求められる立場であるということ等を勘案した結果、現行のまま据え置きとすることが適当であるという判断に至ったものである。

なお、今回の審議に当たっては、昨今の大変厳しい社会情勢及び雇用情勢等を踏まえ、市民感情にも配慮すれば引下げるべきであるという意見が出たが、その一方で市長及び副市長が自ら退職手当を減額するという取組みや、市議会議員も議会改革の取組みに努力されていることについて、一定の評価をしてよいのではないかとの意見もあった。そうした中、当審議会としては、今後への期待も含めて据え置きとの結論に至った点申し添える。

今後も行財政全般にわたり厳しい状況が予想されるが、特別職にある方々には、市民の視点に立った開かれた市政運営を基本姿勢とし、一層の効率化を図るとともに、市民サービスの向上と本市のさらなる発展のために、より一層精励されるよう切に要望する。